

2008

科学技術振興調整費

科学技術振興調整費

科学技術振興調整費は、総合科学技術会議の方針に沿って科学技術の振興に必要な重要事項の総合推進調整を行うための経費であり、以下の施策であって、各府省の施策の先鞭となるもの、各府省ごとの施策では対応できていない境界的なもの、複数機関の協力により相乗効果が期待されるもの、機動的に取り組むべきもの等で、政策誘導効果が高いものに活用されます。

- ① 優れた成果の創出・活用のための科学技術システム改革
- ② 将来性が見込まれる分野・領域への戦略的対応等
- ③ 科学技術活動の国際化の推進

なお、具体的な運用については、総合科学技術会議が概算要求方針や配分の基本的考え方といった基本的な方針を作成し、これらに沿って文部科学省が運用（公募、審査、資金配分、中間・事後評価等）を行うこととされています。

▶ INDEX

| | |
|------------------------------|----|
| 科学技術振興調整費とは | 1 |
| 科学技術振興調整費の成果 | 2 |
| 若手研究者養成システム改革 | |
| 若手研究者の自立的な研究環境整備促進 | 4 |
| イノベーション創出若手研究人材養成 | 5 |
| 「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」採択課題一覧 | 6 |
| 女性研究者支援モデル育成 | 7 |
| 「女性研究者支援モデル育成」採択課題一覧 | 8 |
| 先端融合領域イノベーション創出拠点の形成 | 9 |
| 「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成」採択課題一覧 | 10 |
| 地域再生人材創出拠点の形成 | 11 |
| 「地域再生人材創出拠点の形成」採択課題一覧 | 12 |
| アジア・アフリカ科学技術協力の戦略的推進 | |
| 戦略的環境リーダー育成拠点形成 | 13 |
| 国際共同研究の推進 | 14 |
| 「アジア科学技術協力の戦略的推進」採択課題一覧 | 15 |
| 科学技術振興調整費Q&A | 16 |
| PD・PO制度・成果の利用 | 18 |

科学技術振興調整費の成果 ①

科学技術システム改革

実施課題

■ 戦略的研究拠点育成

「人間と社会に向かう先端科学技術オープンラボ」

東京大学
先端科学技術研究センター
H13～H17

課題の成果

成果の内容

「特任教員」制度を
国立大学等に波及

定員枠に制約されない、戦略的・
機動的な人事調達が可能



実施課題

■ 戦略的研究拠点育成

「フロンティア研究拠点構想」

大阪大学大学院工学研究科
フロンティア研究機構
H13～H17

課題の成果

成果の内容

少人数意思決定方式
による戦略的研究推
進体制の先例

柔軟な組織と迅速な意思決定
の下、新学問を創出



実施課題

■ 戦略的研究拠点育成

「ベンチャー開発戦略
研究センター」

(独)産業技術総合研究所
ベンチャー開発戦略研究センター
H14～H18

課題の成果

成果の内容

ベンチャー創出の公的
プラットフォームを構築

研究シーズ・経営人材・研究資金
の三位一体によるベンチャー創
出モデルの提案と実践



科学技術振興調整費の成果 ②

研究開発

実施課題

■ 先導的研究等の推進

「科学技術研究向け超高速ネットワーク基盤整備」

東京大学
H13～H15

課題の成果

成果の内容

インターネット通信において世界最高の通信速度を実現

7.2Gbps: DVD1枚分のデータを約5秒で送信可能



実施課題

■ 緊急に対応を必要とする研究開発等

「重症急性呼吸症候群(SARS)の診断及び検査手法等に関する緊急調査研究」

国立感染症研究所
H15

課題の成果

成果の内容

国内初となるSARSの検査キットを作製

SARSの感染を1時間以内で判定可能



実施課題

■ 知的基盤整備

「3次元電子顕微鏡の研究開発」

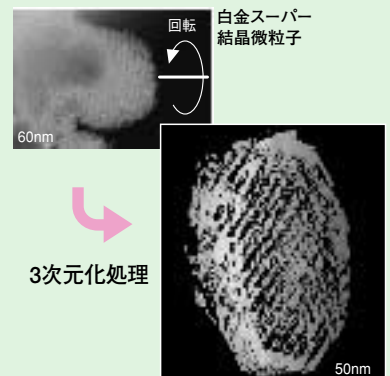
(独)理化学研究所
H9～H13

課題の成果

成果の内容

高解像度で結晶の立体構造を観測可能な技術開発に世界で初めて成功。3次元電子顕微鏡としての商品化に貢献。

0.5nmの高解像度で結晶の立体構造を観測する技術を世界で初めて開発



◎ 若手研究者養成システム改革

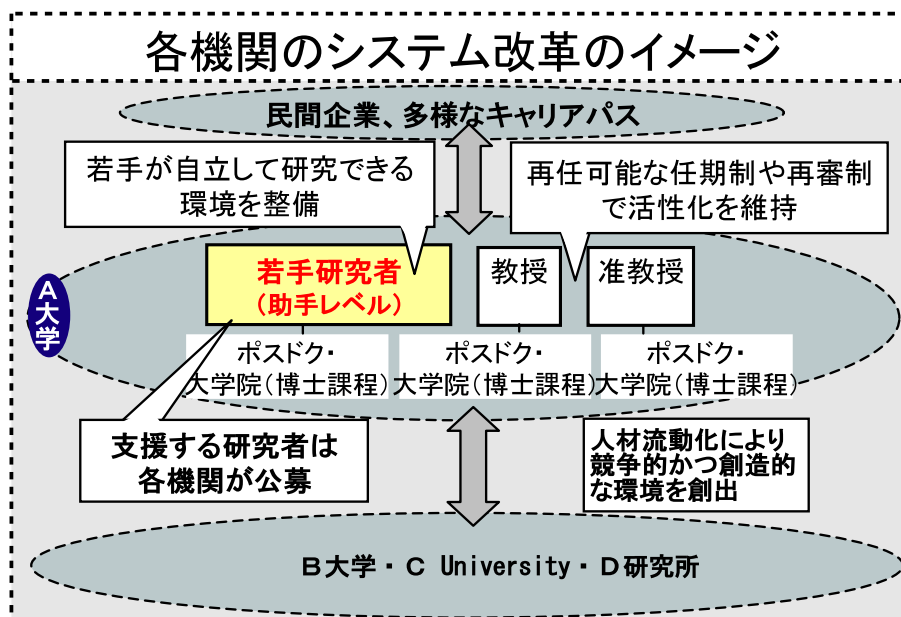
若手研究者の自立的な研究環境整備促進

目的 若手研究者が自立して研究できる環境の整備を促進するため、世界的研究拠点を目指す研究機関において、テニユア・トラック制に基づき若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みの導入を図る。

対象機関 大学、大学共同利用機関、国立試験研究機関及び独立行政法人

実施期間 原則5年間（3年目に中間評価）

実施規模 年間2億5千万円程度（間接経費を含む）



機関選定の基準

優れた人材を育成する実績を有する研究拠点であり、かつ若手研究者が自立的に研究できる環境を整備する研究機関を国が選定。

若手研究者の自立促進のための組織的取組

- テニユア・トラック制（若手研究者が任期付きの雇用形態で自立した研究者としての経験を積み、厳格な審査を経て安定的な職を得る仕組み）の制度設計が十分か
- 若手研究者の独立性の確保が十分か
- 若手研究者の厳格な評価と、その結果によりテニユア・ポストへ着任させるといったキャリアパスが準備されているか
- 人材育成に関する明確な構想があるか 等

調整費による支援により、若手研究者に競争的環境の中で自立性と活躍の機会を与える仕組みを導入

- 若手研究者（調整費による支援対象）の person 費、テニユアトラック段階の研究費等を支援
- 優れた人材の受入体制の整備（国際公募・審査経費、研究支援体制の充実等）についても支援
- 調整費による5年間の支援の間に各機関が予算措置を行い、テニユア・トラック制度を定着

◎ 若手研究者養成システム改革

イノベーション創出若手研究人材養成

目的

イノベーション創出の中核となる若手研究人材が、狭い学問分野の専門能力だけでなく、国内外の多様な場で創造的な成果を生み出す能力を身につける研究人材養成システムを構築する。

対象機関

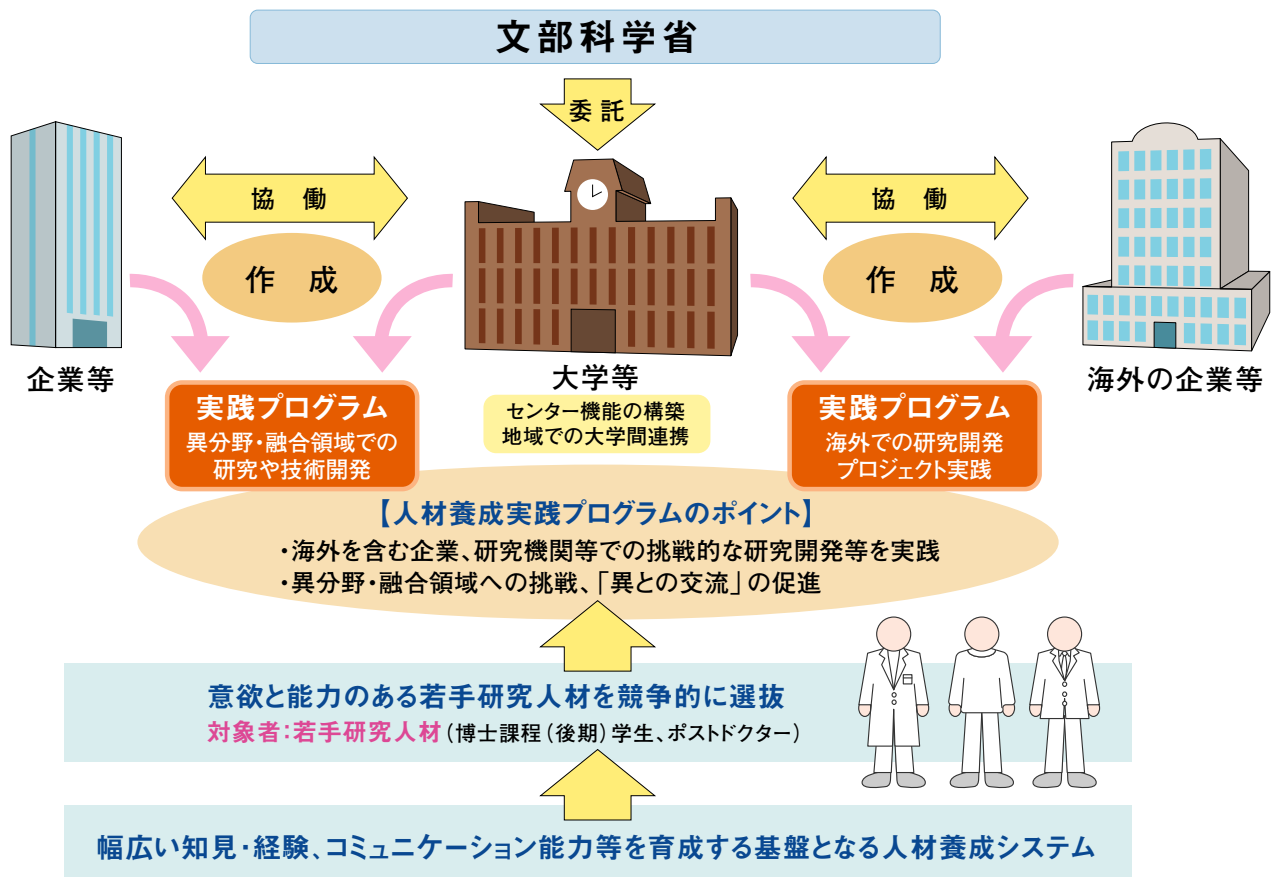
大学、大学共同利用機関、国立試験研究機関及び独立行政法人

実施期間

原則5年間

実施規模

原則として年間1億円を上限（間接経費を含む）



機関選定の基準

人材養成システム改革の一環として、イノベーション創出の担い手となる創造的な若手研究人材を養成するための実践プログラムを企業等と協働で実施する大学等を国が選定。

- 大学等が策定する人材養成システム改革構想に基づき、創造的な人材を養成するためのシステム（イノベーション人材養成システム）を組織として構築
- 当該システムとして、若手研究人材が、国内外の企業や研究機関等での研究開発・技術開発の実践や異分野・融合領域への挑戦など多様な場で創造的な成果を生み出す能力を身につけるためのプログラムを企業等と密接な連携・協働体制の下で作成・実施
- 上記プログラムには、原則、国内外の企業・研究機関等での挑戦的な研究開発等を実践する長期間（3ヶ月以上）の取組を含むこととする。
- 「実践プログラム」で支援する意欲と能力のある若手研究人材を大学等が競争的に選抜するためのセンター機能を構築
- 支援終了後に本取組を各機関が根付かせていくことを担保 等

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」採択課題一覧

■平成18年度採択課題

| 提案課題名 | 機関名 | 代表者名 |
|----------------------|------------------|-------|
| グローバル若手研究者フロンティア研究拠点 | 大阪大学 大学院工学研究科 | 豊田 政男 |
| フロントランナー養成プログラム | 東京工業大学 | 相澤 益男 |
| 新領域を開拓する独創的人材の飛躍システム | 京都大学 | 尾池 和夫 |
| 名大高等研究院研究者育成特別プログラム | 名古屋大学 | 平野 眞一 |
| 若手人材育成拠点の設置と人事制度改革 | 東京農工大学 | 小畑 秀文 |
| 先進融合領域フロンティアプログラム | 東北大学 | 吉本 高志 |
| メディカル・トップトラック制度の確立 | 東京医科歯科大学 難治疾患研究所 | 野田 政樹 |
| ナノテク・材料研究者育成の人材システム | 北陸先端科学技術大学院大学 | 潮田 資勝 |
| 次世代研究スーパースター養成プログラム | 九州大学 | 梶山 千里 |

※申請順

■平成19年度採択課題

| 提案課題名 | 機関名 | 代表者名 |
|------------------------|----------|--------|
| 新領域創成をめざす若手研究者育成特任制度 | 金沢大学 | 林 勇二郎 |
| 先端学際プロジェクトによる若手人材の育成 | 横浜国立大学 | 飯田 嘉宏 |
| 卓越した若手研究者の自立促進プログラム | 東京大学 | 小宮山 宏 |
| 産学融合トップランナー発掘・養成システム | 長岡技術科学大学 | 小島 陽 |
| 北大基礎融合科学領域リーダー育成システム | 北海道大学 | 中村 睦男 |
| 早稲田高等研究所テニユア・トラックプログラム | 早稲田大学 | 白井 克彦 |
| 地方総合大学における若手人材育成戦略 | 長崎大学 | 齋藤 寛 |
| 次代を担う若手大学人育成イニシアティブ | 筑波大学 | 岩崎 洋一 |
| 挑戦する研究力と組織力を備えた若手育成 | お茶の水女子大学 | 羽入 佐和子 |
| 先端領域若手研究者グローバル人材育成 | 電気通信大学 | 益田 隆司 |
| ファイバーナノテク国際若手研究者育成拠点 | 信州大学 | 小宮山 淳 |
| 挑戦的若手研究者の自立支援人事制度改革 | 熊本大学 | 崎元 達郎 |

※申請順

◎ 女性研究者支援モデル育成

- 目的** 女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として研究環境の整備や意識改革など、女性研究者が研究と出産・育児等を両立し、その能力を十分に発揮しつつ研究活動を行える仕組みを構築するモデルとなる優れた取組を支援する。
- 対象機関** 大学、大学共同利用機関、国立試験研究機関及び独立行政法人（自然科学全般又は自然科学と人文・社会科学との融合領域を対象に研究を行っていること）
- 実施期間** 原則3年間
- 実施規模** 年間5千万円程度（間接経費を含む）

「女性研究者がその能力を最大限に発揮できるようにするため、男女共同参画の観点も踏まえ、競争的資金等の受給において出産・育児等に伴う一定期間の中断や期間延長を認めるなど、研究と出産・育児等の両立に配慮した措置を拡充する。大学や公的研究機関等においては、次世代育成支援対策推進法に基づき策定・実施する行動計画に、研究と出産・育児等の両立支援を規定し、環境整備のみならず意識改革を含めた取組を着実に実施することが求められる。国は、他のモデルとなるような取組を行う研究機関に対する支援等を行う。」（第3期科学技術基本計画より）

期待される女性研究者の採用目標の達成の前提として、研究環境整備のみならず意識改革の着実な実施が必要。

優れた女性研究者を輩出するシステムの確立と波及

公募により、各機関のモデルとなる優れた取組を支援。3年の支援終了後は各機関において独自に予算措置。

選定に当たっての要件

- ◆ 女性研究者等のニーズを踏まえた支援内容か
- ◆ 女性研究者をとりまく研究環境の改善が見込めるか
- ◆ 他の研究機関に波及し得る先導的なモデルとなるか
- ◆ 女性研究者支援における取組みの現状・実績
- ◆ 実施期間終了後における取組みの継続性 等

▶ 支援ニーズに対する取組例

- 大学等における出産・育児と研究の両立や男女共同参画に関する相談体制（カウンセラーの配置など）
- 出産・育児期間中の業務負担を軽減するためのシステム作り（柔軟な勤務態勢の工夫など）
- 育児の状況等に応じて、フルタイムでなく、パートタイムで働ける環境の整備（研究支援者の配置など）
- 女性理工系学生が研究者の道にチャレンジすることを促進する施策（若手女性研究者との交流の場の設置、女性理工系学生向けのキャリアパス相談の充実化等）
- 研究組織の幹部、研究者等を対象とした女性研究者の採用、昇進等に関する意識啓発のための活動

「女性研究者支援モデル育成」採択課題一覧

■平成18年度採択課題

| 提案課題名 | 機関名 | 代表者名 |
|-------------------------------|----------|-------|
| 保育とワークシェアによる女性医学研究者支援 | 東京女子医科大学 | 高倉 公朋 |
| 地域連携によるキャリアパス環境整備 | 熊本大学 | 崎元 達郎 |
| 女性研究者の包括的支援「京都大学モデル」 | 京都大学 | 尾池 和夫 |
| 理系女性のエンパワーメントプログラム | 東京農工大学 | 小畑 秀文 |
| 女性研究者マルチキャリアパス支援モデル | 日本女子大学 | 後藤 祥子 |
| 社の都女性科学者ハードリング支援事業 | 東北大学 | 吉本 高志 |
| 研究者養成のための男女平等プラン | 早稲田大学 | 白井 克彦 |
| 生涯にわたる女性研究者共助システムの構築 | 奈良女子大学 | 久米 健次 |
| 女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築 | お茶の水女子大学 | 郷 通子 |
| 輝け、女性研究者!活かす・育てる・支えるプラン in 北大 | 北海道大学 | 中村 睦男 |

※申請順

■平成19年度採択課題

| 提案課題名 | 機関名 | 代表者名 |
|----------------------|---------------|-------|
| 東大モデル「キャリア確立の10年」プラン | 東京大学 | 小宮山 宏 |
| 応援します!家族責任を持つ女性研究者 | (独) 森林総合研究所 | 鈴木 和夫 |
| 女性研究者グローバルエンカレッジング | (独) 産業技術総合研究所 | 吉川 弘之 |
| 世界へ羽ばたけ! 女性研究者プログラム | 九州大学 | 梶山 千里 |
| 次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成 | 大阪大学 | 宮原 秀夫 |
| 隠れた人材を活用した女性研究者支援 | (独) 物質・材料研究機構 | 岸 輝雄 |
| 発展型女性研究者支援名大モデル | 名古屋大学 | 平野 眞一 |
| 再チャレンジ!女性研究者支援神戸スタイル | 神戸大学 | 野上 智行 |
| 支援循環型体制による女性研究者育成モデル | 千葉大学 | 古在 豊樹 |
| リーダーシップを育む広大型女性研究者支援 | 広島大学 | 牟田 泰三 |

※申請順